

JA全農 WEEKLY

6-7面

京都大学野生動物研究センター教授 平田聡氏インタビュー
新自由主義は猿っぽい、協同組合は人間っぽい!

9面

東北・みやぎ復興マラソンをサポート



東北・みやぎ復興マラソン2018のゴールで宮城県産米のおにぎりを配布(9面)



東京都中野区で開かれた「東北復興大祭典なかの2018」で全農東北プロジェクトメンバーが「東北和牛」と東北の特産品を販売(8面)



霊長類学が専門で熊本サンクチュアリ所長も務める平田氏(6-7面)

- 2 食品輸出EXPOで世界各国のバイヤーに国産食材PR(輸出対策部)
JAいみず野管内のえだまめ生産23経営体がJGAP団体認証取得(富山県本部)
- 3 「みのりみのるマルシェ」を広島駅で初開催(広島県本部)
とれたて新米ウォーク2018を開催(富山県本部)
- 4 今年で10年目「田んぼのがっこう」おむすびレンジャー(茨城県本部)
作物栽培総合技術研修がスタート(TAC推進課)
- 5 アメリカで平成30年度全農役員海外視察(総務部)
- 8 全農東北プロジェクトで「とうほく創生 Genki プロジェクトフォーラム in 仙台」、「東北復興大祭典なかの2018」に参加、出展(耕種総合対策部)
- 10 県本部だより(栃木県本部)
- 11 青果情勢(園芸部)
- 12 宮城米新CMを発表(宮城県本部)
エコープマーク品 ^{Instagram} Instagram 始めました(生活リテール部)
JAタウンショップ紹介
JAにいがた南蒲

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



News!

世界各国のバイヤーに国産食材をPR

「第2回日本の食品輸出EXPO」に出展

輸出対策部

全農輸出対策部とJA全農インターナショナル(株)は10月10〜12日、千葉市の幕張メッセで開かれた「第2回日本の食品輸出EXPO」にブースを出展しました。

このEXPOには世界各国から1万4000人を超えるバイヤーが来場し、全農ブースにも中国・香港・シンガポール・米国など30カ国を超えるバイヤーが訪れ、合計約180件の商談を実施しました。

和牛・米・果実などはもちろん、各県特産のジュースやお菓子は「ユニークな



米・青果・畜産など63種類の商品を出展した全農ブース

商品」としてアジア系バイヤーの注目を集めたほか、各県域から提供の甘藷(かんしょ)1種類を焼き芋にして試食提供し、好評を得ました。また、和牛の商談にきたバイヤーへ青果を紹介し新規商談につなげるなど、JAグループならではの商談も実施することができました。

今後、商談案件の成約に向け努力していくとともに、このような機会を通じ、国産農畜産物の輸出拡大に努めます。



注目を集めた各県特産のジュースやお菓子

News!

富山県JAいみず野管内のえだまめ生産23経営体がJGAP団体認証

JAグループの支援で県内初の取得

富山県本部

富山県JAいみず野管内のえだまめ生産者23経営体は、9月21日付で県内初のJGAP団体認証を取得しました。

JAグループは平成29年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央金庫で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスを行っています。



JGAP団体認証を受けたえだまめ部会の皆さん

JAいみず野では、黒大豆えだまめは、黒大豆えだまめで販売額1億円を目指して生産振興しており、選ばれる産地として栽培技術向上だけではなく、GAPの取り組みが不可欠であると考え、えだまめ部会として認証を目指し、今回の認証取得に至りました。部会員の多くが集落営農法人であり、構成員同志は気心が知れており運営しやすい反面、作業者が多く管理や記帳が難しい面もありました。

認証はあくまでも通過点、今後も継続してより良い農場運営を目指します。



特産のJAいみず野の黒大豆えだまめ「富山ブラック」

「みのりみのるマルシェ」広島駅で初開催

中国地方初の企画、駅利用者で大盛況

広島県本部



「みのりみのるマルシェ at 広島駅」の入り口

広島県本部とＪＲ西日本広島支社が連携し、県本部直営の産直市「とれたて元気市」の出店販売を行いました。広島県産の旬の野菜や果物、加工品など約５０００点を用意。オープンと同時に駅利用者で大盛況でした。ＪＲ西日本広島支社は、

全農とＪＲ西日本がＪＲ大阪駅などで展開している「みのりみのるマルシェ」を１０月１９日、広島市のＪＲ広島駅で開催しました。「みのりみのるマルシェ at 広島駅」と題したこの企画は中国地方では初めての企画です。



多くの人でにぎわう会場内

「県内外の幅広い年齢層の方に来ていただけたように感じた。今後も地域の魅力発信のためのお手伝いをしていく」と力を込めました。このマルシェは、年内は毎月開催される予定です。広島県本部は今後もＪＲ西日本と連携し、県産農畜産物を広く周知していきます。

とれたて新米ウォーク2018開催

ウォーキング×旬の県産農畜産物でスポーツと味覚の秋満喫

富山県本部



景色を楽しみながら歩く参加者

とれたて新米ウォークは今年で８回目、子どもからお年寄りまで２５０人が参加し、約３・５キロのコースを秋の景色を楽しみながら歩きました。ゴール後は、新米「コシヒカリ」、旬の県産野菜、とやま牛・とやまポークがふんだんに入ったカレーライスやコロッケ、呉羽梨をふるまい、富山の秋の味覚を堪能するだけでなく、スタッフ

富山県本部は、ウォーキングで体を動かすと同時に、旬の県産農畜産物を楽しんでもらおうと１０月２０日、射水市の県民公園太閤山ランドで「とれたて新米ウォーク2018」を開催しました。



参加者から好評だった参加記念品



ゴール後は県産食材がたっぷり入ったカレーとコロッケで味覚の秋を堪能

フ職員が食材紹介を行い、県産食材の良さをアピールしました。また、参加者全員に富山米新品種「富富富」２キロと県産野菜の詰め合わせ、はとむぎ豆乳飲料をプレゼントし、参加者からは「とてもおいしかった」「お土産がうれしい」と好評でした。



今年で10年目「田んぼのがっこう」おむすびレンジャー

いばらきコープと共催、収穫編にコープ組合員9家族29人参加

茨城県本部

茨城県本部は、茨城町の県本部農機総合センターで、「田んぼのがっこう」おむすびレンジャーを開きました。協同組合間連携の取り組みとしていばらきコープ生活協同組合と共催し、今年で10年目を迎えました。9月30日の「収穫編」には、コープ組合員9家族29人が参加しました。

この取り組みは、バケツ
稲の田植えから収穫まで、
米作りを体験することで、
子どもたちに農産物を作る

こぎなどの身近な道具を使
い、脱穀・もみすり・精米
までを体験しました。

喜びや食べる事の楽しさ、
大切さを体験してもらったこ
とを目的に行っています。今
回は、田植え、中間点検に続
く3回目の交流会で、各家
族が収穫した稲を持ち寄り、
牛乳パックや空き瓶、すり

作業の後、子どもたちは
自分で作ったおむすびを食
べ、「夏には稲の花を見るこ
とができうれしかった」な
ど印象に残った出来事を振
り返りました。保護者は「子
どもがお米に親しむ機会と
なり、お米を残さず食べる
ようになった」と語りま
した。



牛乳パックを使い脱穀作業



修了証を受け取ることもたち



作物栽培総合技術研修がスタート

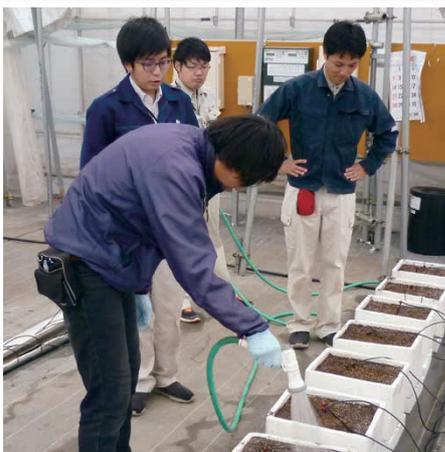
TACがさらなる現場対応力アップへ

TAC推進課

TACのさらなるレベルアップによる現場対応力強化を
目的とした「作物栽培総合技術研修」がスタートしました。こ
の研修は昨年度から開講しており今年度が2回目となりま
す。

受講生は、必修科目「総
合技術研修(全農営農・技
術センター)」と、選択科
目「作物別研修(全国4実
習農場)」を履修し、技術ス
タッフから手ほどきを受け
ながら、実習を通じて園芸
作物の栽培基本技術と新技
術を体系的に学習できま
す。

受講者からは、「技術の
裏付けが確認でき、知識の
引き出しが増えた」、「実践
的な研修内容なので、現場
で生かせる」と好評でした。
第2クール(1月)は、栽培
管理を学びながら自主研究
テーマに取り組みま
す。



ういずOneの設置作業に取り組みTAC



ういずOne配管設置作業

アメリカで平成30年度全農役員海外視察を実施 飼料穀物集出荷の一連の流れや食肉加工施設、 肥料原料の集出荷施設など視察

3年に1回開催される役員海外視察(2班制で今回は第2班)をアメリカで、9月25日～10月5日の11日間で実施しました。役員11人が参加し、全農の海外事業の取り組みを实地確認し見識を深めました。【総務部】



研修に参加した役員の方々(左からPZFの施設で)

顧客ニーズを捉えた 輸出拡大の取り組み

初めに、全農アメリカと現地卸売会社の合弁で設立した食肉加工販売会社のP&Z FINE FOODS(PZF)を視察しました。従来、牛肉の輸出は10キロ程度のブロック単位で卸売会社へ販売していましたが、PZFはブロック肉を顧客が求めるステーキサイズや薄切りスライスなどに加工し、量販店・ホテル・レストラン・エコマースなどへの販路拡大を図っています。今後の国産農畜産物の輸出拡大に重要な取り組みであることを確認しました。

飼料穀物集出荷の一連の流れを視察

収穫最盛期である穀物農家



穀物農家を視察する参加者

の収穫作業、穀物集荷を担うCGBエンタープライズ(株)を視察し、穀物の収穫から集出荷の一連の流れを見ることができました。全農グレインは、従来から単一の穀物エレベーターとして、世界最大級の取扱量を誇っています。が、今年3月に拡張工事を完

成させ、供給能力を40%増の年間1800万トンの1900万トんに引き上げました。CGBではサイロ数を増やすなど集荷能力を高めており、両社の努力また両社間の協力が安定・安価な飼料原料の供給につながっていることを学びました。

巨大なリン鉱山 採掘現場を視察

窒素・リン酸・加里トータルの生産能力において世界第2位の肥料メーカーであるモザイク社を視察しました。モザイク社はリン鉱石を4鉱区保有していますが、今回は、250万平方メートル、生産能力650万トンのリン鉱山採掘現場とリン安の生産工程を視察し、そのスケールの大きさに驚きました。

また、集中監視システムを視察し、採掘現場やパイプ

ラインの状況などを常時遠隔監視で緻密に管理している状況を見ることができました。

視察を終え

高橋武団長から解団に当たり、「今回の視察で得た貴重な体験や団員と深めた絆を今後のJAグループ事業の発展に生かしていきたい」とコメントがありました。

今回の視察では、日本農業のために、海外で日夜努力する全農グループ職員の姿を目の当たりにしました。現地で働く職員の活躍に感銘を受けると共に、海外事業の重要性をあらためて認識し、大変有意義な研修となりました。



モザイク社の集中監視システムの説明を受ける参加者

京都大学野生動物研究センター教授
兼熊本サルクチュアリ所長

平田聡さん

Satoshi Hirata

1928年に発見された新種の類人猿、ボノボ。チンパンジーと並んで、人間に最も近い生物ですが、その行動や性格はチンパンジーとはかなり異なっています。その違いが人類社会を考える上でのヒントになればと考え、霊長類学の専門家である京都大学の平田聡教授にインタビューしました。

【広報部】

新自由主義は猿っぽい、 協同組合は人間っぽい！

人間に最も近いボノボ
とチンパンジー

700万年ぐらい前にボノボとチンパンジーとの共通祖先が人間と枝分かれしました。そして、ボノボとチンパンジーと



食べ物を分け合うボノボ(提供:熊本サルクチュアリ)



食べ物を巡りけんかするチンパンジー(提供:熊本サルクチュアリ)

に分かれたのが、100万年から250万年前のどこかだと言われています。今、地球上に生きている動物の中で、人間に一番近いのはボノボとチンパンジーの二つです。研究者の受け売りですけど、人間とボノボ・チンパンジーとのDNAの違いは、全部の中で1・23%です。

ボノボとチンパンジーの違い

ボノボとチンパンジーでは、雄と雌の性格が全然違います。チンパンジーは雄が力で制圧して、社会の安定を成り立たせています。雄は性成熟の過程で若者期に結構乱暴になって、めったやたらに暴れ回って、雌より強くなります。そして雄同士の間、力と力の勝負の中で順位を決めていく、そういう社

プロフィール

ひらた・さとし／1973年東京都生まれ。1996年京都大学理学部卒、2001年京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物科学専攻修了・博士(理学)取得。京都大学霊長類研究所 ヒト科3種比較研究プロジェクト 特定准教授などを経て2015年4月から熊本サルクチュアリ所長。『仲間とかかわる心の進化——チンパンジーの社会的知性』(岩波科学ライブラリー)など著書多数。



会です。雄の中でも、1番、2番、3番というのを決めて、逆にそうすることで、頻繁にケンカする必要をなくしています。

ですけど、ボノボの場合は、どういいうわけか、雌の方が結束して、雄よりも権力を握っています。もめ事があると、雌同士で皆固まって、バラバラの雄を攻撃するので、雄が負けちゃうんです。虐げられているお父さんみたいな感じ。ちょっと言い過ぎですけど。

ボノボは、チンパンジーに比

熊本サンクチュアリ

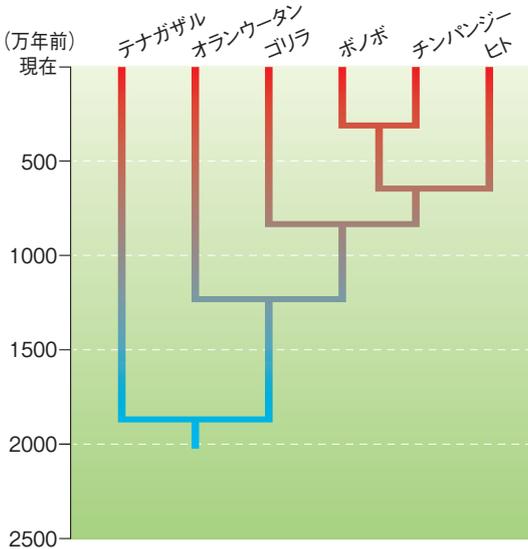
熊本県宇城市にある京都大学野生動物研究センターの研究施設。チンパンジーやボノボを対象に、霊長類の比較認知科学や行動学に関する研究を行っている。

日本の動物園にはボノボは飼育されていないが、ここには13年と14年に米国の動物園からボノボを受け入れている(非公開)。

ボノボ

哺乳綱霊長目ヒト科チンパンジー属に分類される霊長類。1928年発見された。コンゴ民主共和国の、コンゴ河の内側の熱帯雨に生息する。外見はチンパンジーと比較的似ており、当初はヒグミーチンパンジーと呼ばれていた。ボノボの生息地とチンパンジーの生息地は大河で隔てられていて、両者が同じ場所では会わない。

類人猿の系統樹(テナガザル以上)



べたら平和的です。野生のチンパンジーは結構殺し合いというのがありますが、それに比べてボノボの場合、殺し合いはしません。でも、ボノボもけんかすることがあります。ただ、その理由は良く分かりません。チンパンジーのけんかは、食べ物や雌の取り合い、雄同士の順位決め、縄張り争いなど原因が分かりやすいですが、ボノボの場合は、力関係、どっちが強い、どっちが弱いというのがないから、何かよく分からないところで秩序がアンバランスになって、けんかになるのかなと思います。

人間は先を見通す力に優れている

人間がボノボやチンパンジーと違うのは、先を見通す力が優れている点です。将来を考えて、未来を考え、予測して、計画して、秋に米を食べるために、春に田んぼに苗を植えるということができるのですけど、チンパンジーもボノボも、見た感じだとそんな先のことなんて思っていないで、いま食べられそうな物はいま食べる。だから僕が昔、行ってたアフリカで、人が植えた田んぼをチンパンジーが荒らしにくるので、米だけ

じゃなくて、茎も全部食べちゃうわけですよ。いま食べられるから。あと熊本サンクチュアリの飼育施設でも、トマトを食べた後のうんちから種が芽を出して、トマトが出てきたりするのですね。実が出るまで待たなくて、食べられる若い芽のときに食べちゃうのです。ボノボも。これは基本的には同じだと思えます。だから、いま待つて将来の、いま食べたこれだけの若い緑、葉っぱなのだけど、将来待たらもつとトマトがいつばい食べられるぞというのを見通して、投資をしたりはできないのだと思います。

人間は人間の良さである「長期的・多面的・利他的」な所を生かすべき

「ボノボに学べ」とか、「ボノボが理想郷だ」みたいに関われることもありますが、ボノボも理由が分からないけんかをしたところ、悪いところを学べ、「チンパンジーの良いところを学べ」、「人間は、ボノボやチンパン

ジーと違って、「長期的、多面的、利他的」という良さを持っているのだから、それを生かすべきです。新自由主義的な発想、「今だけ、金だけ、自分だけ」という考え方は猿っぽいと思います。協同組合というと、助け合つて、将来の皆の生活を安定させましょうということだと思えますので、そういう原理が働くのは、そこは人間だからじゃないか。協同組合は人間っぽい、ということじゃないかと思えます。

平田教授のサイン入り著書プレゼント

5名様

平田教授のサイン入り『仲間とかかわる心の進化——チンパンジーの社会的知性』(岩波科学ライブラリー)を抽選で5名様にプレゼントします。



応募方法 郵便はがきに、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、「JA全農ウィークリー」の感想をご記入の上、ご応募ください。

応募先 〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JA全農広報部 JA全農ウィークリー「平田聡教授本プレゼント」係

締め切り 平成30年11月30日(金)当日消印有効
*応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
*いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

全農東北プロジェクト

東北の食
未来プロジェクト



全農東北
ZEN-NOH TOHOKU

「とうほく創生 Genkiプロジェクトフォーラム in 仙台」、 「東北復興大祭典 なかの2018」に参加、出展

【耕種総合対策部】

仙台市

東北の産業の課題と飛躍で討論 パネリストとして安田常務が登場

全農東北プロジェクトと東北七新聞社協議会は、東北の県域を越えた連携を目指す点で親和性があり、同プロジェクトは、七新聞社協議会が主催する「とうほく創生 Genki プロジェクトフォーラム in 仙台」に協賛。10月28日、仙台市の仙台国際ホテルで開かれた公開討論に安田忠孝常務が登場しました。



公開討論に登壇し東北の発展・活性化を提言する安田常務

このフォーラムは2015年から毎年1回、テーマを決め6県持ち回りで開催されており、今年は「とうほくを広げる～飛躍の条件を探る～」をテーマに、310人が参加しました。JR九州取締役監査等委員の後藤靖子氏の基調講演のあと、公開討論会では安田常務のほか、日本政策金融公庫副総裁の伊藤健二氏、アイリスオーヤマグループ会長の大山健太郎氏の3人のパネリストがそれぞれの立場から、東北の課題と発展活性化のための提言を発表、意見交換しました。

安田常務は、東北の農業について「農業人口は減少し高齢化が進んでいる。耕作放棄地の増加は全国平均を上回っており、全国で最も増大しているなど暗い話が多いが、一方で若手新規就農者は近年増加傾向にある」とデータを示しながら解説、「食の供給基地『東北』は今後も変わらない。多様な消費ニーズにいかに対応して農畜産物を提供するかがカギ」と説明しました。また、東北6県本部が連携して東北ブランドの販売力強化に取り組むプロジェクト「全農東北」がブランド化した「東北和牛」を紹介・PRしました。

東京・中野

「東北和牛」や 東北6県の新米などPR

全農東北プロジェクトは東北七新聞社協議会が企画する「とうほく創生 Genki プロジェクト」と連携し、10月27、28日、東京都中野区で開かれた「東北復興大祭典 なかの2018」に出展。27日は特設ステージで全農東北プロジェクトメンバーが東北6県の魅力を来場者にPRしました。



橋本マナミさんとともにステージで「東北和牛」や東北6県の特産品をPRする全農東北プロジェクトメンバー



「東北和牛」と東北の特産品を販売

出展ブースでは東北和牛のサイコロステーキ、各県おすすめ銘柄の新米300g(2合)袋、各県のリンゴやジュースなど、東北6県の特産品のPR販売を行いました。当日は、開店と同時にサイコロステーキを求めお客さまが並び始め、両日も昼過ぎには完売しました。また、全農東北プロジェクトメンバーがPRした新米には「(この銘柄は)初めてだから試してみたい」、「いつも食べている。おいしい」などの声を多数いただきました。

27日の特設ステージでは同プロジェクトのPR大使を務めるタレントの橋本マナミさん(山形県出身)、JA全農北日本くみあい飼料(株)の廣野忠典常務と共に全農東北プロジェクトメンバーがステージに登壇しました。ステージでは、それぞれ各県の特長や特産品のPR、「東北和牛」の取り組みの紹介し、橋本さんから「(各県の特産品について)まだ食べたことがないからぜひ食べてみたい」「(東北和牛について)これからも応援しています」などの掛け合いを行いながらPRしました。

東北・みやぎ復興マラソン2018をサポート



再生進む被災地を約1万1000人が快走

宮城県南部の沿岸部を走る「東北・みやぎ復興マラソン2018」が10月13、14日に開かれ、JAグループ宮城と全農グループはメジャーパートナーとして協賛し大会運営をサポートしました。【宮城県本部・広報部】



黄金色の稲穂ロードを疾走するランナー ©東北・みやぎ復興マラソン2018

「復興創生トマト」 給水所でランナーに

コースは津波の被害を受けた沿岸部に設定され、ランナーは津波対策で新たに整備された、かさ上げ道路や更地が広がる海岸線を駆け抜けました。亘理町荒浜の給水所では、被災から復活した農地で元気に育った山元町の「復興創生トマト」



給水所でJAグループ宮城職員らが「復興創生トマト」を配布

ト」や石巻市・山元町のミニトマト「アンジエレ」をランナーに振る舞いました。

メイン会場で復興マルシェ 東北・みやぎの「食」PR

岩沼市のメイン会場では復興マルシェも開かれ、県内産農畜産物のほか東北6県の特産品を販売し、来場者に東北・みやぎの「食」の魅力をPRしました。また、入賞者へは宮城県産米「だて正夢」が贈られ、ランナー全員にお米のミルク、金のいぶき玄米、パックご飯、「みやこがねもち」使用お赤飯のおむすびを配布し、PRしました。

また、全農職員8名もランナーとして参加し全員完走。特に宮城県本部職員でランナーの佐藤京介さんは、倒れた

わたしたち、全農グループは東北・みやぎ復興マラソン2018 TOHOKU-MIYAGI REVIVE MARATHON を応援しています。

<ul style="list-style-type: none"> 全農 全国農業協同組合連合会 全農物流株式会社 全農協食品株式会社 全農ハルマズ株式会社 JA全農たまご株式会社 全農がにこぶ株式会社 株式会社科学肥料研究所 石巻博望サイロ株式会社 JA全農北日本くみあい肥料株式会社 JA西日本くみあい肥料株式会社 東北協同乳業株式会社 全農フワックス株式会社 エーコープ 関東 エーコープ 東北 エーコープ 西日本 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社 全農ビジネスサポート JA全農農研センター株式会社 JA全農センター株式会社 高橋ハム MIC株式会社ミートランド 全農サイロ株式会社 全農畜産サービス株式会社 JA東日本くみあい肥料株式会社 JA全農東北くみあい肥料株式会社 全農エネルギー株式会社 Aコープ東北 株式会社 エーコープ岩手 JAグループ宮城 JAグループ宮城 JAグループ宮城
--	---

JAグループ 全農 全農グループ

多くのグループ会社も協賛

ランナーの救護を行うなどの貢献をしました。



男女入賞者へ宮城県産米「だて正夢」を贈呈 ©東北・みやぎ復興マラソン2018

県本部 だより

栃木県本部



「いちごめファーム」が平成 30年産から栽培スタート

「いちご王国とちぎ」の確固たる地位確立へ

栃木県本部では昨年度から、いちご実証栽培施設「いちごゆめファーム」を設置し、生産者の所得向上と高

齢化に伴う生産者数や面積の減少といった課題解消に向けて力を注いでいます。

2本の柱を掲げ 実証栽培スタート

同施設では、「全農独自のいちご高単収生産パッケージの実証と提案」、「次代の担い手の育成・ネットワーク基盤づくり」の2本の柱を掲げ、実証栽培を行っています。

- ①生産量全国1位のJAはが野管内で高収量栽培に取り組み生産者と提携し、レベルの高い安定・多収栽培技術の実証に取り組みんでいます。さらに、その実証データを基に、いちご農家への情報提供や営農支援を行えるようなシステムを構築しています。
- ②新たにいちご栽培に取り組む担い手や高単収を目指す担い手を対象とした

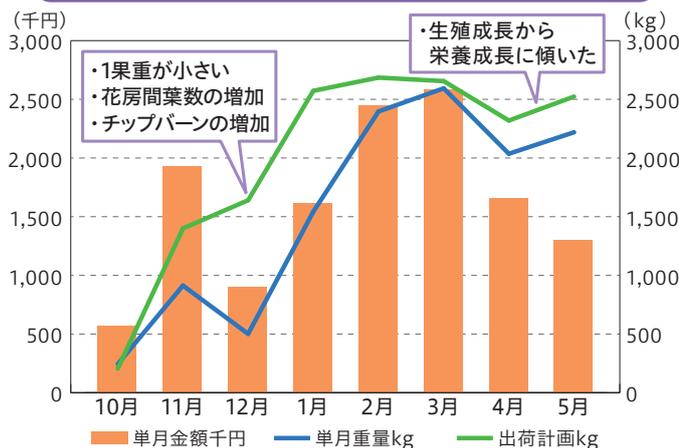
受け入れ研修の実施、全農職員やJA職員への栽培技術の研修といった、研修施設としての役割も果たしています。

収量8ト/10アへ挑戦 初年度実績は6・2ト

優良な土壌を生かして初期投資を抑制できる土耕栽培と、夜冷栽培による早出しを組み合わせた栃木県型多収栽培技術を採用し、県内慣行栽培の単年平均収量4・2ト/10アのところを、「収量8ト/10ア」を目標とした栽培モデルの確立を目指しています。一般型のパイハウスにウオーターカーテンやクーラウン冷却設備LED電照や炭酸ガス発生装置などの設備を取り入れ、データの収集・分析を行っている。また、ICT制御システムでの管理も採用しています。

定植は平成29年8

いちごゆめファーム月別実績(平成30年産)



月27日。収穫期間は平成29年10月20日〜平成30年5月31日の約7カ月間。30年産の実績は、6・2ト/10アとなりました。今回の課題を踏まえ、31年産の栽培に生かしていきます。

同施設では今後も、いちご生産における高単収生産パッケージの発信・普及に力を注ぐとともに、将来を担う担い手のネットワーク基盤づくりを行い、「いちご王国とちぎ」の地位確立に取り組んでいきます。

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

主力産地は関東以西中心へ

概況

11月は、パレシヨ・タマネギなどを除き、本州の関東以西および西南暖地を中心の出荷となります。

キャベツは、愛知・千葉などが中心の出荷となります。台風被害がありましたが、各産地とも昨年を上回る出荷を見込みます。

ハクサイは茨城中心の出荷となります。台風被害がありますが、生育はおおむね順調となっています。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。台風による塩害もありますが、作柄は今後回復してくるでしょう。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

ニンジン、千葉などが中心の出荷となります。8月の高温と干ばつ、台風被害から厳しい生育環境でしたが、生育は回復に向かっています。出荷量は前年並みを見込みます。

レタスは、茨城・兵庫・静岡などが中心の出荷となります。8月の高温と干ばつから定植遅れがありましたが、徐々に回復傾向となっています。出荷量は前年を上回る見込みです。

トマトは、熊本などが中心の出荷となります。台風による被害が散見され、一部で作付面積は減少しています。出荷量は前年を下回る見込みです。

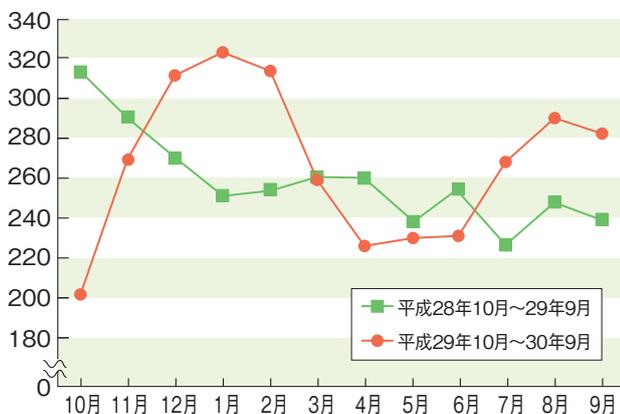
キュウリは、埼玉・群馬などの関東産地が中心の出荷となります。曇天・低温の影響があり、出荷のペースは鈍化見込み。出荷量は前年並みを見込みます。

パレシヨ・タマネギは、北海道が中心の出荷となります。生育は夏季の高温と干ばつから小玉傾向となっています。出荷量は、タマネギ・パレシヨとも前年を下回る見込みです。

店頭

朝晩の冷え込みが厳しさ増して、温かい鍋を囲む機会が増える季節となってきます。そのため野菜売り場では、ダイコンやハクサイ、ネギに加えてきのこ類の品ぞろえも充実してきます。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産野菜価格



果 実

秋の味覚が勢ぞろい

概況

11月はミカン・リンゴを中心に、秋果実の種類が豊富な時期となります。

ミカン類は、愛媛・長崎・熊本などが中心の出荷となります。中旬から早生種が出そろう時期となり、出荷量は前年をやや上回る見込みです。

リンゴは、青森・長野・山形などを中心に、「ふじ」の出荷が始まります。台風により傷果の発生率が高くなる可能性があります。出荷量はおおむね前年並みを見込みます。

柿は、福岡・奈良などを中心に「富有」、新潟を中心に「平核無」の出荷となります。前進出荷傾向で切り上がりも早く、前年を下回る出荷量となる見込みです。

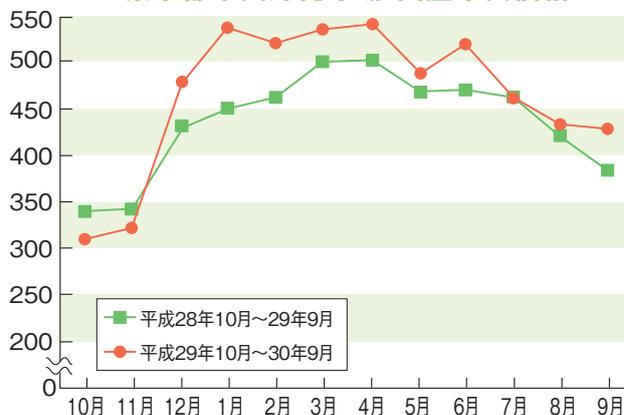
西洋梨は、山形の「ラ・フランス」、新潟の「ル・レクチェ」などの出荷となります。台風の被害を受けたことから、出荷量は前年を下回る見込みです。

イチゴは、栃木を中心に福岡・静岡などの出荷となります。各産地とも台風被害は少なく、定植は無事に終了しました。低温によりやや生育遅れが見られますが、中旬以降徐々に増加し、下旬には各産地が出そろう見込みです。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

店頭

果物売り場では、早生ミカン、ふじリンゴ、平核無柿、富有柿、イチゴに加えて西洋梨(ラ・フランス)や干し柿など、秋冬の味覚が所狭しと青果コーナーの前面で売り出されます。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産果実価格



主産県 だより

10月はピーマン、レタス、ダイコン、トマト、キュウリ、梨、イチゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

サンドウィッチマンが「おにぎりマン」に改名?!

宮城米を全国PRへ 新CM発表



JAグループ宮城は10月18日、東京都内で米卸、実需者を集め、平成30年産宮城米説明会を開催し、併せて平成30年度宮城米新CMを発表しました。 【宮城県本部】

昨年に引き続きサンドウィッチマンの伊達みきおさん、富澤たけしさんを「みやぎ米メッセンジャー」に任命。新CMでは「みやぎは米なんです。」をキャッチコピーに、サラリーマン役の富澤さんが宮城米のこだわりを熱く語り、「ごちそう」宮城米を全力で表現しています。

新CM発表のトークイベントでは1日限定で「おにぎりマン」に改名。司会の大橋未歩さんとともに宮城米「ササニシキ」「ひとめぼれ」「だて正夢」のおいしさをPRしました。

伊達さんは「いつも家で食べているのは、ひとめぼれ。かめばかむほどカロリーがなくなる」と独自理論を展開。富澤さんは「炭水化物抜きダイエットがはやっていますが、男はご飯をいっぱい食べる女性が好き。女性もご飯をいっぱい食べる男が好き。ぜひご飯を、宮城米を食べてほしい」と呼び掛けました。

新CMは10月19日から宮城県、関東地区、中京地区、関西地区で放映しています。



平成30年度宮城米新CMを発表した右から宮城県本部運営委員会の高橋正会長、サンドウィッチマン(富澤さん⑥、伊達さん)、大橋さん、宮城県本部の太友良彦本部長



新CMは、飲み会の締めにお茶漬けを食べて帰ろうという上司の提案に賛成したサラリーマン役の富澤さんが、熱く宮城米について語ります。最後に一連を見ていた易者役の伊達さん(後方)もおいしそうに宮城米を食べます



エコープマーク品 Instagram始めました

生活リテール部

生活リテール部は、エコープマーク品の認知度向上をめざし、公式Instagramアカウントを開設しました!こちらでは商品のこだわり、アレンジレシピ、開発秘話などを個性豊かな

メンバーが紹介しています。ストーリーでは担当職員の赤裸々な日常が垣間見えるかも……!? ぜひともフォローいただき、「いいね!」を押しいただくと幸いです。

エコープマーク品
公式Instagramは
こちらから



JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

JAにいがた南蒲



ルレクチエ約2キ(5〜7個入り) 4000円

JAタウンは
こちらから



「ルレクチエ」は、「西洋梨の貴婦人」と呼ばれ、栽培が非常に難しく、国内ではほとんどが新潟で生産されている幻の果実です。果皮の色が淡い緑から黄色を経て、輝くような黄金色へと変化していきます。口に入ると、上品な香りが口いっぱいに広がり、ジューシーで滑らかな食感、酸味の少ない濃厚な甘みをお楽しみいただけます。収穫後、1カ月程度追熟させてから、解禁日をもってあなたのもとへ、お届けいたします。この機会にぜひ、ご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、11/22(木)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。
【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。